

# 学習者の意識化と自己評価

## —体験型短期研修での実践から—

岩澤和宏（国際交流基金関西国際センター）

Kazuhiro\_Iwazawa@jpf.go.jp

### 【要約】

国際交流基金関西国際センターで実施されている体験型短期研修に関する実践報告。この研修では、自国の日本語教育機関で既に学んだことを実際に日本で使ってみることを重視し、そのための実際的なアクティビティを行っている。研修参加者はそれぞれのアクティビティにおいて、Can do の形で記された能力記述リストを使って自己評価することが求められる。2012年の研修では、学習者の意識化を重視する観点から2011年の研修で試用したCan do リストに修正を加えた。修正されたCan do リストと学習者の反応について報告する。

### 1. はじめに

言語教育のあり方は、近年大きく変化してきた。ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）（以下、「CEFR」）が世に出たとき、それは欧州域内の言語教育や言語政策に関わるものだと思われていたが、その背後にある言語教育の哲学は瞬間に欧州域を飛び出してしまった。日本の公共電波を使っての幅広い言語教育にもCEFRが使用されているのは、CEFRに凝縮された言語教育に関する考え方が普遍性を持っているからに他ならない。

言語教育の変化を一言で表現するならば、「教える/学ぶ言語」から「使う言語」への視点のシフトであろう。「言語知識の量」や「正確さ」で言語のレベルを測るのではなく、その目標言語を使って何ができるのかに視点を移す。その「できること」を「Can do」という形で示し体系化し、「できること」のレベルを明示化することが求められるようになった。

最も大切なことは、何ができるようになったのか/できるようになりたいのかについて学習者が明確な意識を持ち、目標言語の学習を自律的に進めることである。そのためには学習の過程で自己評価が必要になる。

国際交流基金関西国際センター（以下、「関西センター」）では、海外の大学等で日本語を学んでいる学習者を対象に4週間から6週間の体験型短期研修を実施している。この研修では、自国の日本語教育機関で既に学んだことを実際に日本で使ってみることを重視し、そのための実際的なアクティビティを行っている。

本稿では、2012年の体験型短期研修で使用された自己評価Can do リストを紹介する。2011年の実践と比較しながら、学習者の意識化の重要性について考察する。

### 2. 体験型短期研修における学習者の意識化

ここで体験型短期研修と呼んでいるのは実際の研修名ではなく、「日本語学習者訪日研修」や「国内

大学連携大学生訪日研修」などの研修について、実際上の特徴を捉えて呼んでいる名称である。この研修の概要については、岩澤（2012）でやや詳しく述べたので、ここでは簡単に紹介するに留める。

体験型短期研修では4～6週間という限られた時間の中で、日本という環境を生かした日本語教育を行うことを重視している。

研修の目標としては、以下の3点を挙げている。

- ① 日本語を使うことに、より自信をつける。
- ② 日本の文化・社会について、確認・発見する。
- ③ 日本語学習の目的や方法について、具体的に考える。

ひとつめの目標として、日本語を「使う」ことより自らの日本語に自信を持つことを挙げている。この研修では、「文法」「漢字」「読解」といった、多くの日本語学習者が普通に慣れ親しんだ名称の授業はない。研修参加者の国でも出来ることを日本で行うよりも、日本でしか出来ないことを行う方が意義深いと考えている。

従来型の授業ではなく、体験型短期研修では「インタビュー」「スピーチ」と「ディスカッション」の3科目を柱としている。それぞれの科目でそれぞれの活動に必要な語彙・文型・技能を習得し、実際の運用に結び付けていく。

上に記した3つの目標は、関西センターが1997年5月の設立以来一貫して掲げてきた研修の目標に基づいている。

関西センターは、研修の目標として①自律学習を奨励すること、それと共に日本語学習だけではなく②日本文化・社会理解を、設立の当初から掲げてきた。また、日本語学習は研修期間のみで終わるものではなくその後も継続するべきでものもであり、それを支援する意味で③継続学習支援を行ってきた。これら3つが関西センターの目指す日本語教育の特徴である。

これらの特徴は、外交官・公務員日本語研修や研究者日本語研修などの専門日本語研修から始まったものであるが、日本語学習者研修（日本語学習奨励研修）においても引き継がれた。そして、今ここで報告している体験型短期研修においてもその基本方針は引き継がれている。

この研修での科目の概要についても岩澤（2012）で詳しく述べたので、ここでは「インタビュー」の手順について軽く触れておく。

研修が始まる来日前から、インタビュークラスに関しては研修参加者に概要を説明し、どんなテーマでインタビューを行いたいかを調査しておく。実際にそのテーマでインタビューができるとは限らないが、大まかな心の準備、即ち学習の意識化はここから始まる。

研修参加者の人数に合わせて8～10人のクラスをいくつか作る。クラス分けは基本的に能力別だが、国籍や希望テーマなども考慮に入れる。

8～10人を2つのグループに分ける。国籍や性格、適正なども考慮に入れるが、何よりも各自が希望するテーマに近いものになるようグループを決める。テーマはグループでひとつとする。

グループとテーマが決まったら、質問項目を考えてクラス内で練習、センター内の教師へのインタビューなどを行いながら修正を加え、実際のインタビューを行う。大学生や地域の国際交流団体に協力をお願いする。

ここまでの手順については2011年までとほぼ同じだが、2012年は学習者の意識化を促すことを主な目的として自己評価の方法をいくらか修正した。修正とその結果について以下に述べる。

### 3. 自己評価チェックリスト (Can do チェックリスト) の改善

繰り返し述べているように、体験型短期研修では知識や正確さよりも日本語を使って何ができるかという点に比重をおいている。そして、評価の中心は「自己評価」になる。

2011年に行った研修においても自己評価を行い、それは一定の成果を挙げた。2011年の研修で使用した「自己評価チェックリスト (Can do チェックリスト)」は岩澤 (2012) の添付資料1に掲げてあるのでここでは再掲しないが、能力を正確に記述しようとして表が複雑になり、研修参加者からはわかりにくかったというコメントが多かった。正確に記そうとすればするほど記述の分量は増加し、分かりやすさは減少する。「記述の正確さ」と「分かりやすさ」は共に大切なので、バランスをとることが必要である。

2012年の研修では、分かりやすさも重視し、同時に学習者の意識化を促すことを目指して「自己評価チェックリスト」を改善した。ここでは「インタビュー」と「会話力」のチェックリストを示す (参照: 添付資料1)。

2011年の研修で使用したチェックリストでは、研修参加者の日本語レベルが多岐に渡る可能性を排除できないとして、CEFRのA2からC2までのCan do リストを掲載した。C2レベルの研修参加者を想定していた訳ではなかったが、C2レベルのCan do 記述が次の目標になり得るレベルの学習者を守備範囲として想定していた。

2012年の研修で使用したチェックリストでは、この研修における到達目標を提示する形で、その示された目標に対してどの程度達成できたかを示すことにした。また自己評価を複数回行い、その変化を可視化することにより、自分の到達点を再確認したり伸びを自覚したりできるよう工夫した。とりわけ2012年の研修ではインタビューを行う機会が4回あったので、その過程で自己評価を重ねることにより次回への課題なども自覚できたことと思われる。

また、インタビューで情報収集するのは単なる日本語の能力だけではなく、場の主導権を握りつつ話の流れを制御していく能力が求められる。そうでなければ、日本語は理解できるが欲しい情報が得られないまま時間ばかりが過ぎてゆくという状況になりかねない。そのような視点もインタビューのチェックリストに盛り込んだ。

会話力のチェックリストについては、2012年の研修では未だ試行段階であり、全面的な実施には至っていない。会話力のチェックリストに「…怖がらずに勇気を持って日本語でチャレンジすることができる」「…日本語だけで…」のように、日本語でのコミュニケーションに対する心構えに関する記述が複数あり、これらはこれまで行ってきたCan do とは異なる種類の自己評価であることがその理由だ。心構えについて言及したのは、日本語でコミュニケーションするのに十分な能力があるにも関わらず、心の準備ができていないという理由だけで日本語でのコミュニケーションを試みようとしぬ研修参加者が複数いるためだ。英語が堪能な参加者に見られることが多いのだが、そのような研修参加者に向けて用意した特別のCan do 記述なので、研修参加者全員には試用していない。ただ、「意識化」という点からは他のCan do 記述とも共通する面があると考えられる。

### 4. 研修参加者の反応

Can do 記述や自己評価の方法を修正した結果、研修参加者はどのような反応を示したのか。それについて2011年との比較で2012年の反応を以下に述べる。

研修の時期や参加者の国籍等の諸条件により研修参加者の反応も異なることから、先ず二つの研修

の類似性を確認しておきたい。双方とも正式名称は「21 世紀東アジア青少年大交流計画 東アジア日本語履修大学生研修プログラム（夏季コース）」という研修である。研修期間と研修参加者の内訳は、表 1 で示した通り、研修の時期も人数も研修参加者の国籍や割合も比較的類似している（参照：表 1）。

自己評価チェックリスト以外の条件の類似性を確認した上で、研修修了時のアンケートから自己評価表についての反応を比較した（参照：図 1～4）。アンケート調査は、研修修了直前に実施している（参照：添付資料 2）

研修期間	2011 年 6 月 8 日～7 月 20 日	2012 年 6 月 6 日～7 月 18 日
研修参加者の出身国 (人数)	シンガポール (6) ブルネイ (1) ベトナム (2) マレーシア (5) ミャンマー (4) インド (5) オーストラリア (5) ニュージーランド (3)	シンガポール (7) ブルネイ (1) マレーシア (6) ミャンマー (3) インド (5) オーストラリア (5) ニュージーランド (1) カンボジア (1) タイ (5) ラオス (1)
合計	34 名	36 名

表 1 「21 世紀東アジア青少年大交流計画 東アジア日本語履修大学生研修プログラム(夏季コース)」

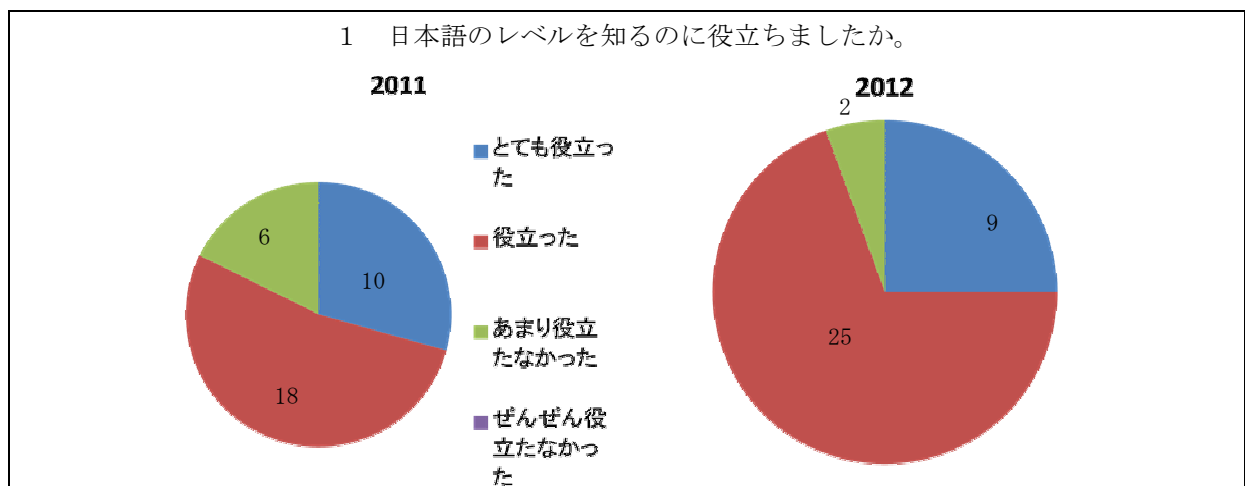


図 1 質問 1 「日本語のレベルを知るのに役立ちましたか。」

2 書いてあることはわかりやすいですか。

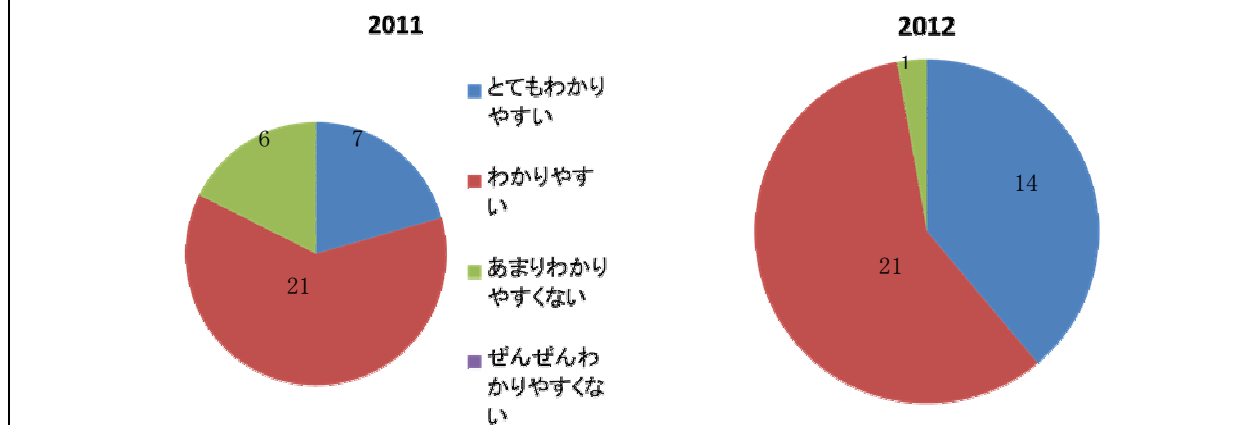


図2 質問2「書いてあることはわかりやすいですか」

3 自己評価チェックで自分の日本語のレベルを知ることは大切ですか。

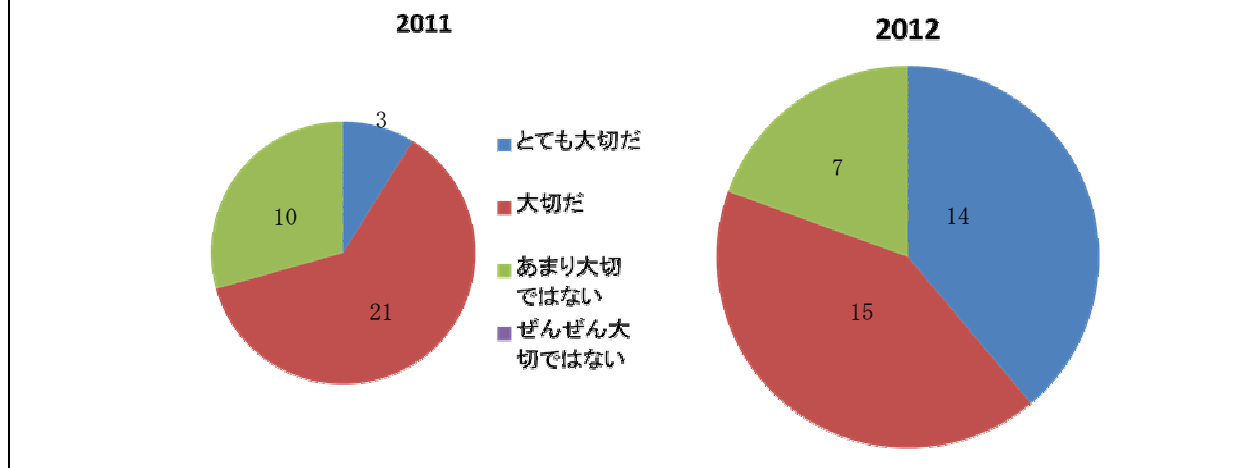


図3 質問3「自己評価チェックで自分の日本語のレベルを知ることは大切ですか。」

4 自律学習を進める上で役に立ちますか。

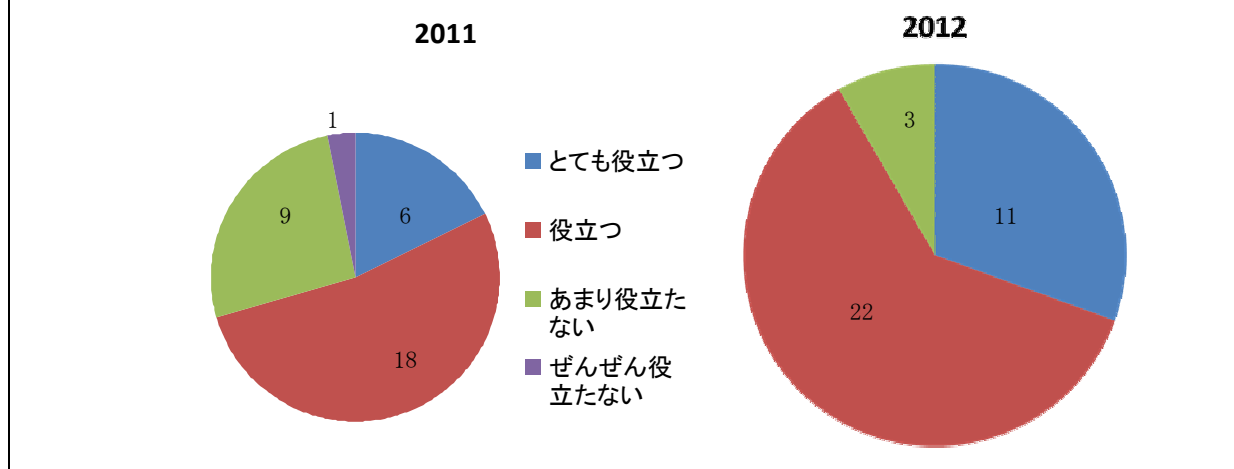


図4 質問4「自律学習を進める上で役に立ちますか。」

アンケート調査の結果を見る限り、全ての項目において数値の上昇が見られる。即ち、2012年の研修で実施した自己評価は、より日本語のレベルを知るのに役に立ち、より分かりやすく、それを使って日本語のレベルをチェックすることがより大切で、自律学習を進める上でより役に立つという結果になった。特に、質問2にあるように、「わかりやすさ」という点では数値に大きな伸びがあった。分かりやすさを目指して修正を加えたのだから当然の結果ではあるが、その分かりやすさが他の面にも良い影響を与えていることも考えられる。

アンケートでは自由記述も求めており、2012年実施のアンケートには初めて行う自己評価に戸惑いながらも肯定的に評価する視点や帰国後も自己評価を継続する旨の記述などが見られた。同時に、従来通り教師からの評価を求める記述もあった（参照：添付資料3）。

## 5. 考察・課題

自己評価の重要性については研修の当初から説明を続けているが、研修参加者全員が自己評価に慣れている訳ではない。また、その必要性についての認識も様々であろうと思われる。最後はやはり教師に能力を数値で評価して欲しいという声は根強くある。

自己評価から自律学習に至る道筋についても、更に工夫を要する。研修修了後に自律学習が実践しにくい環境にある学習者に研修期間だけの自律学習を要求しても説得力に欠ける。

Can do 記述の分かりやすさについてはこれまでも工夫を重ねてきたが、媒介語の助けを得たとしても分かりやすさといふは言い難い。更に工夫を要する。

## 参考文献

- Council of Europe(著) 吉島茂、大橋理枝(訳、編)(2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社
- 岩澤和宏、沼崎邦子(2009)「異文化に焦点を当てた授業と評価—ケルン日本文化会館での実践から—」『日本語教育連絡会議論文集 Vol. 21』日本語教育連絡会議事務局 pp. 26-33
- 岩澤和宏、沼崎邦子、古川嘉子、島田徳子(2009)「JF 日本語教育スタンダードと Can Do 記述—ケルン日本文化会館における実践—」『ヨーロッパ日本語教育 13 第 13 回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 報告・発表論文集』ヨーロッパ日本語教師会、トルコ日本語教師会、pp. 148-155
- 岩澤和宏、三矢真由美、カタリーナ・ドゥツス、古川嘉子(2009)「ケルン日本文化会館における日本語講座改善の試み—J F 日本語教育スタンダードの試行を通じた初級講座のシラバス見直しを中心に—」『2009 日本語教育シンポジウム』(予稿集) ヨーロッパ日本語教師会 pp. 46
- 岩澤和宏(2010)「日本語学習と異文化理解—ケルン日本文化会館での実践から—」『日本語教育連絡会議論文集 Vol. 22』日本語教育連絡会議事務局 pp. 33-39
- 岩澤和宏(2012)「Can do リストを教室活動に合わせてカスタマイズする—体験型短期研修の場合—」『日本語教育連絡会議論文集 Vol. 24』日本語教育連絡会議事務局 pp. 58-64
- 嘉数勝美(2006)「ヨーロッパの統合と日本語教育—CEF(「ヨーロッパ言語教育共通参照枠」)をめぐる—」『日本語学 vol. 25』明治書院 pp. 46-58
- 熊野七絵・品川直美・羽太園・田中哲哉・矢澤理子・西野藍(2009)「短期訪日コースのための教材開発—『日本語ドキドキ体験交流活動集』—」『国際交流基金紀要 第5号』国際交流基金 pp. 135-150

- 国際交流基金（2009）『J F 日本語教育スタンダード試行版』国際交流基金
- 国際交流基金（2010）『J F 日本語教育スタンダード 2010』国際交流基金
- 国際交流基金関西国際センター（2008）『日本語ドキドキ体験交流活動集』凡人社
- 西野藍・石井容子（2009）「学習者の協同と教師の関わりを重視したディスカッション練習の活動デザイン」  
『国際交流基金日本語教育紀要 第5号』国際交流基金 pp. 1-16
- 西野藍・川嶋恵子（2010）「国際交流基金レポート 12 体験交流を通じた学習のデザイン」『日本語学, vol. 29,  
No. 13』明治書院 pp. 98-107

添付資料 1

「自己評価チェックリスト Self-Evaluation Checklist」

KN12 インタビュークラス

No. \_\_\_\_\_ 名前: \_\_\_\_\_

目標:

- ①インタビューに必要な表現を知り、日本人との対話に慣れる。
- ②選んだテーマについて、日本人の考え方や習慣などを調べる。
- ③インタビューから得た情報を分析し、本国・他国と比較することで、日本や日本人についてより深く理解する。

①インタビュー準備	<p>インタビューの流れに沿った適切な質問文が作れる。</p> <p>Can form some questions appropriate to the flow of the interview.</p>
②インタビューの実践1	<p>準備したインタビューを行い、答えに合わせて次の質問ができる。</p> <p>Can conduct a prepared interview, taking the interviewee's response as a cue upon which to base the next question.</p>
③インタビューの実践2	<p>自然に適切なあいづちを打って、会話をスムーズに運ぶことができる。</p> <p>Can carry on a conversation smoothly using appropriate supportive responses in a natural manner while listening.</p>
④情報収集1	<p>必要な情報が収集できるよう、話の流れを制御(コントロール)できる。</p> <p>Can control the flow of the interview to collect the necessary information.</p>
⑤情報収集2	<p>キーポイントがメモできる。後でメモを見て、話の流れを復元できる。</p> <p>Can make a note of the key points. Can take notes to which you can refer afterwards.</p>

インタビューはどうでしたか？

Progress Note !

チェックしてみましょう。

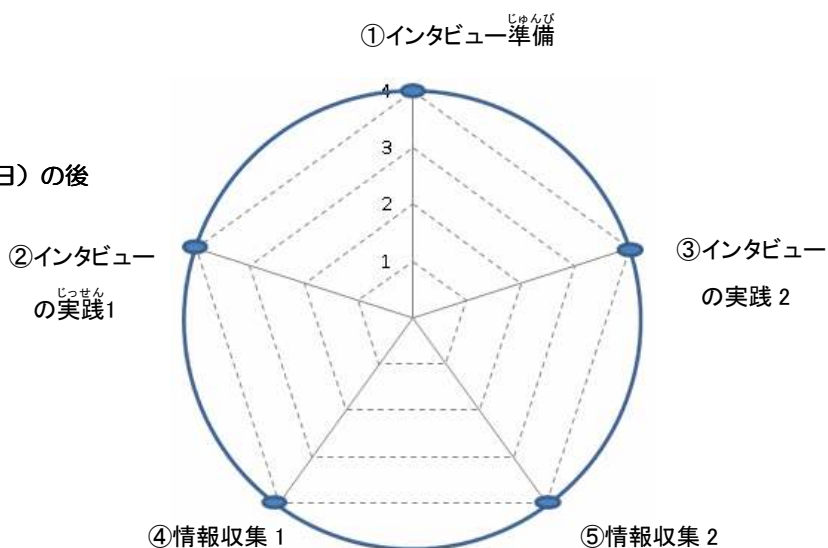
クラス内インタビュー（6月20日）の後

：赤のペンでチェック

4回目のインタビュー（神戸大学、7月4日）の後

：青のペンでチェック

- 1: まだむずかしい
- 2: まあまあ
- 3: だいたいできた
- 4: よくできた



インタビューが全て終わった後で・・・

どんなことがよくできるようになりましたか？

これからもっとがんばりたいことは何ですか？

---



---



かいわりよく じ こひょうか  
「会話力」自己評価

No. \_\_\_\_\_ 名前: \_\_\_\_\_

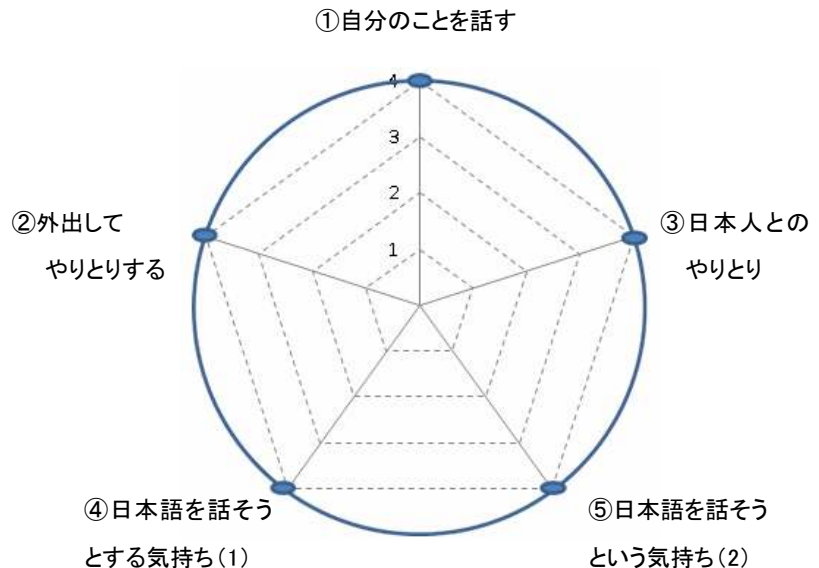
①自分のことを話す	<p>自分の専門分野や大学生活、国の観光地など、よく知っている話題について話すことができる。 Can talk about familiar subjects such as his/her field of study, student life and tourist sites of his /her country.</p>
②外出してやりとりする	<p>簡単だが幅広く言葉を使え、外出中に遭遇する可能性のあるほとんどの状況に対処できる。 Can exploit a wide range of simple language to deal with most situations likely to arise whilst going out.</p>
③日本人とのやりとり	<p>時には特定の単語や表現を繰り返してもらわなければならないが、日常の会話で自分に向けられた話で、発音がはっきりとしていれば理解できる。 Can follow clearly articulated speech directed at him/her in everyday conversation, though will sometimes have to ask for repetition of particular words and phrases.</p>
④日本語を話そうとする気持ち(1)	<p>日本語で表現することが少しむずかしいと思える場合でも、怖がらずに勇気を持って日本語でチャレンジすることができる。 Can challenge bravely in Japanese without fear even if he/she thinks it is a bit difficult to express in Japanese.</p>
⑤日本語を話そうとする気持ち(2)	<p>英語やその他の共通言語を使わないで、日本語だけで会話を続けることができる。 Can carry on conversation only in Japanese without using English or other common languages.</p>

チェックしてみましょう。

Progress Note !

コースが始まってすぐ：赤のペンでチェック  
コースが終わるすぐ前：青のペンでチェック

- 1: まだむずかしい
  - 2: まあまあ
  - 3: だいたいできた
  - 4: よくできた



コースが全て終わった後で・・・

どんなことがよくできるようになりましたか？  
これからもっとがんばりたいことは何ですか？

---



---

添付資料 2

研修修了時アンケート：「自己評価チェックリスト」について

【自己評価チェックリストについて】 About the checklist

No. \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

「スピーチ」「インタビュー」2科目の自己評価チェックについて

①自己評価チェックは自分の日本語のレベルを知るのに役立ちましたか。

Was the checklist useful for you to know your Japanese language level?

【1 とても役立つ 2 役立つ 3 あまり役立たなかった 4 ぜんぜん役立たなかった】

very useful                  useful                  not very useful                  not useful at all

<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>
----------	----------	----------	----------

②自己評価チェックに書いてあることは、わかりやすいですか。

Is the description of the checklist clear?

【1 とてもわかりやすい 2 わかりやすい 3 あまりわかりやしくない 4 ぜんぜんわかりやしくない】

very clear                  clear                  not very clear                  not clear at all

<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>
----------	----------	----------	----------

③自己評価チェックで自分の日本語のレベルをチェックすることは大切ですか。

Is it important for you to check your Japanese language level by using the checklist?

【1 とても大切だ 2 大切だ 3 あまり大切ではない 4 ぜんぜん大切ではない】

very important          important                  not very important                  not important at all

<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>
----------	----------	----------	----------

④自己評価チェックは自律学習を進める上で役に立ちますか。

Is the checklist useful for you to promote learner independence/learner autonomy?

【1 とても役立つ 2 役立つ 3 あまり役立たない 4 ぜんぜん役立たない】

very useful                  useful                  not very useful                  not useful at all

<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>
----------	----------	----------	----------

<コメント comment>

### 添付資料3

研修修了時アンケート：「自己評価チェックリスト について」

自由記述コメント（一部。原文は手書き。下線・斜体は筆者。他は原文のまま）

自己評価は私にとってはとても役に立ちました。自己評価で自分のじょたつがチェックすることが出来るので、帰国してもそう言う自己評価をつくって見ます。

自己評価チェックということは、私にとって初めてです。だから、はじめて聞くとそれは何ですか。自分に役に立つのか、疑問がありました。しかし、やってみると、早く忘れやすい私にとっていいと思います。国に使えます。

自己評価のチェックをして、自分のどんないいところと良くないところがはっきり見えることは大切だと思います。日本語能力のレベルははっきりと見えるはできないけれど、重要ではないと思うので大丈夫だと思います。

自己評価はとてもいいです。しかし、自分だけチェックすることは役立ちますが、もっと役立つために他の人に評価されたほうがいいと思います。

*Teacher feedback* would have also been useful as it is hard to judge one's own Japanese ability.

以上